

## 熱性けいれん

あけましておめでとうございます。いつもコラムを読んで頂き感謝申し上げます。さて、インフルエンザをはじめ冬は高い熱を出す風邪が流行する時期です。小さいお子さんは熱に伴いケイレンを起こすことがあります、今回は熱性けいれんのお話し。

子供の脳は熱に敏感で、発熱に伴いケイレンを起こすことがあります。生後6ヶ月～6才頃までに多く、熱性けいれんと呼びます。頻度はだいたい10人に1人位、けっして希なことではありません。

ケイレンは熱の上がり際に多く、突然の意識消失、顔色不良、白目、体を反らせて硬くなったり、手足をガクガクふるわせたりします。初めてみるとビックリしますが、多くの場合5分以内でおさまります、落ち着いて対応しましょう。

具体的な対応法ですが、倒れたり、ぶつかってケガをしないように寝かせます。次に、吐くこともありますので、喉が詰まらないように顔も体も横向きにします。後はケイレンが止まるまで様子を見て下さい。ケイレン時間が解るように時計を確認、可能であればケイレンの様子（目はどっちを向いていた？手足の動きは左右対称？）を覚えていて頂くと、病院受診の時に役立ちます。ケイレン時間が5分を越えて10分近くになっても止まらない時は、救急隊に連絡しましょう、この場合でも慌てなくて大丈夫です。

5分以内に落ち着く熱性けいれんであれば、麻痺などの後遺症が出たりとかの心配はいりません、風邪に伴う症状の一つです。熱性けいれんをおこした半分以上の子は一度きりで繰り返しませんので、薬も使わずそのまま様子を見るのがほとんどです。とにかく慌てず、落ち着いて大丈夫です。ケイレンが止まったらかかりつけを受診しましょう。